

# ほかんけんだより



## 生きものが生まれ育つ博多湾

博多湾は、人々に多くの海の恵みを与え、身近な憩いの場として利用されています。  
この豊かな自然や海の恵みを未来の世代に引き継ぐことを目指し、「博多湾環境保全計画（第二次）」が平成28年9月に策定されました。



博多湾環境保全計画（第二次）が目指す博多湾の将来像のイメージ  
 (保全計画についてはこちら ⇒ <http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyok/k-chosei/hp/keikaku4.html>)

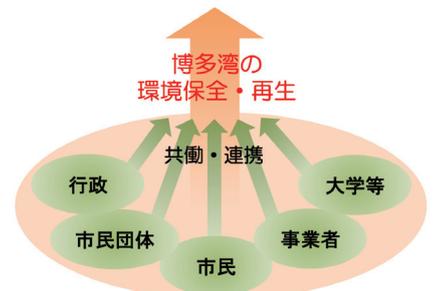
## 博多湾の現状と課題

下水道整備などの水質保全対策が進み、博多湾の水質は改善されてきていますが、まだ環境基準を達成できていない項目や海域があるほか、赤潮や貧酸素水塊（酸素が不足した状態の海水）が発生するなど様々な課題が残っています。

## 保健環境研究所の取り組み

福岡市保健環境研究所では、博多湾の課題を解決するために、保全計画の5つの視点に基づき、様々な調査・研究に取り組んでいます。

- ①水質保全 ②水の循環や栄養塩などのバランス
- ③生きものの生息環境保全 ④水産資源の保全・回復
- +
- ⑤親水空間の創出および市民等との共働



# 貧酸素水塊の調査

## 博多湾に貧酸素水塊が発生すると…

- ①水に溶けている酸素が不足すると魚などの生物が窒息します。特に、酸素量が **3.6 mg/L** 以下の**貧酸素水塊**が発生すると、**貝などの底生生物は生息しづらくなります**。
- ②海底の栄養塩が海水に溶け出し、植物プランクトンが増えやすくなります。**(赤潮の発生)**

## 発生状況調査の結果

- ①多量の河川水流入などにより、海面と海底の塩分の差が大きくなると海水が混ざりにくくなり、海底まで酸素が届かず、貧酸素水塊が発生しやすくなることがわかりました。(図 1)
- ②博多湾では潮の流れが遅い**湾奥部**や**沿岸域**などで発生しやすいことがわかりました。(図 2)

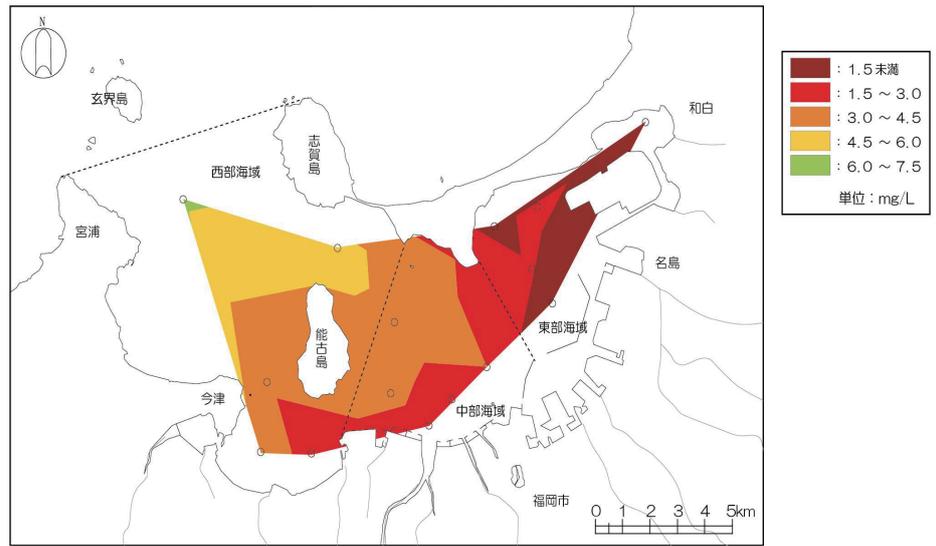
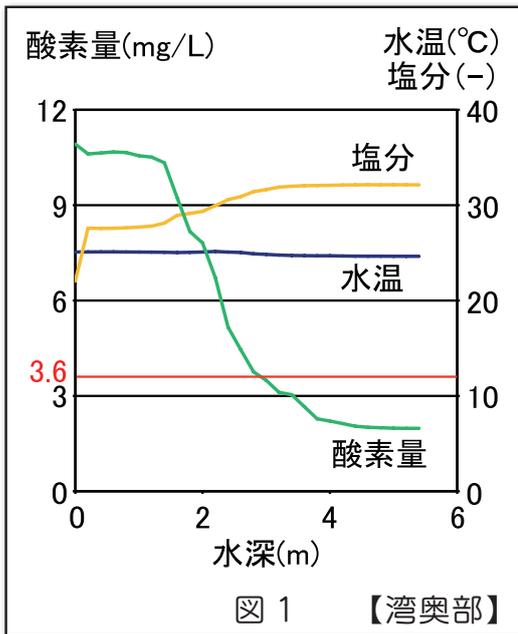


図 1：貧酸素水塊発生時の海面から海底までの水中の酸素量、塩分及び水温の変化（保健環境研究所による調査）

図 2：海底上 0.1 m の酸素量の分布（平成 26 年度の年間最低値） 資料：福岡市環境局、福岡市港湾空港局

保健環境研究所では、現在、国立環境研究所や他の自治体とともに、貧酸素水塊が発生しやすい水質について研究しています。

## 市民等との共働

地行浜において、**生きものの生息・生育環境づくり**の体験型講座を開催する予定です。（平成 29 年度から）

皆様のご参加をお待ちしています。



その他の福岡市保健環境研究所の取り組みについては、下記URLをご覧ください。

### 編集・発行 福岡市保健環境研究所

〒810-0065 福岡市中央区地行浜2丁目1-34  
TEL:092-831-0660 FAX:092-831-0726  
E-mail:hokanken.EB@city.fukuoka.lg.jp  
URL:<http://www.city.fukuoka.lg.jp/kankyo/hokanken/>

ホームページも是非ご覧ください

廃棄物資源化担当及び  
廃棄物処理施設担当の事務所

〒812-0051 福岡市東区箱崎ふ頭4丁目13-42  
TEL 092-642-4570 FAX 092-642-4595

